



校訓
敬愛 自主 剛健

未来橋

令和6年9月

高浜町立高浜中学校



Takahama Junior Highschool

夏の歩みを2学期の実りに

青々としていた稲穂が黄金に色づき、収穫の時期を迎えています。高中生は一大行事の学校祭や秋の新人大会に向けて準備や練習に余念がありません。夏季休業中には、探究学習で地域へ足を運んだり、補充学習や部活動に参加したりするなど、新たな目標に向けて歩みを進めてきました。その中で、地域の方々と出会い、新たな発見や課題から様々な学びを得ることができました。引き続き、成果となる実りの陰に地道な努力の積み重ねがあることを肝に銘じながら着実に前進してほしいと思います。

夏季地区大会では、女子バスケットボール部が4年ぶりに県大会で優勝、北信越大会への出場を果たしました。部員一同、大きな舞台に立つことで貴重な経験が得られました。大会にあたり、保護者をはじめ、指導者や先輩社会人の皆さん、多くの方々から激励や多大なご支援をいただきましたことに厚くお礼申し上げます。



北信越女子バスケットボール競技大会(新潟県)

子どもの可能性を引き出す大人に

折しも、今夏はパリオリンピックが開催され、数々の名場面に沸きました。その中で、スケートボードの女子ストリート部門で、吉沢恋選手(14歳)が金メダルに輝き感動を呼びました。

父の功さんは、時間の融通をつけるため転職をして、7歳からつきっきりで指導をしてきましたといいます。しかし、大会が1年

前に迫る中、指導に行き詰まり伸び悩むことに。「こうしろ。ああしろ。」というばかりで恋さんの考えが聞けていなかったことに気づいた功さんは、練習後に「今日の父ちゃん何点やった?」と指導の感想を聞くこととしたそうです。

最初の頃は、恋さんから「0点。感情的に怒っているだけ。」と痛烈に返され、55点と言われた時は、「教えてくれた内容は感謝してる。でも、怒った感じの言い方が嫌」と。一度だけ200点をもらったことも。それは「こんなやり方があるんじゃないかな。」と選択肢を複数示した時でした。



若狭地区駅伝大会に向けた練習

功さんは「以前は10を教えていた。でも5を教え5を引き出すようにしたことで、恋自身が思ったことを言えるようになったのは大きな変化。指導者である前に父と娘。親としても娘の考えていることをよく聞き、一緒に高め合うようになると恋は急成長した。」と取材に答えています。

親のあり方は様々ですが、私たち大人として考えさせられるエピソードです。人は、はじめから大人や親になるのではなく、子どもと一緒に試行錯誤し、悩んだり喜んだりしながら成長していくものだと思います。

私たち教職員も同様です。教職員一同、今一度、指導や支援のあり方について振り返りながら研鑽を積み重ねていきたいと思います。

学校内外で活躍、地域に貢献する高中生（下記は一部、詳細はブログにて）

夏季休業中、補習や部活動など目標に向かって努力を積み重ねました。全国・北信越大会への出場、アートリンピックへの出品、定期演奏会の開催など、その世界を拡げようと活躍する生徒の姿も見られました。地域においては、盆踊りの運営や、探究的な学習などを通して、地域との関わりを一層深めることができました。



高浜の魅力発見
移住経験者へ取材(秋岡屋)



開発商品のPR販売
(銀座・ふくいアンテナショップ)



「藍染め」から考える人権
(ヒューマンサークルの活動)



子どもの居場所・遊び場づくり
空き家の利活用(なかまっち)



人が集う公園整備と清掃活動
(町建設整備課職員)



買い物難民を防ぐ取組
高齢化と移動や交通（県民生協）



地域のにぎわいづくり
灯音祭準備（和田公民館）



高浜の自然をPR
(遊覧船の観光アナウンス担当)



こいく広場・スマイルマルシェ
町の子育て支援((kurumu))



全国中学生陸上大会(女子1500m)



吹奏楽部定期演奏会(町文化会館)



サマースクール(講師:町内企業社員)